

ハ) 電気伝導度の平面分布状況

一斉測水調査に併せて井戸水の簡易水質（水温、pH、電気伝導度）を測定した。この内電気伝導度の平面分布状況を図 2.4-4に取りまとめた。

- ① 庄川扇状地の地下水の電気伝導度は、全体としては10～25(ms/m)の値を示すが、小矢部川上流域及び扇状地内の庄川沿いには10(ms/m)以下の低い値を示すゾーンが帯状に認められる。
- ② 一方、下流沿岸部の射水低地では塩水侵入の影響を受けて500～1000(ms/m)以上の高い電気伝導度を示している。また、小矢部川本川沿いの井戸では30～50(ms/m)の値を示しており、塩水遡上により庄川に比べて上流部まで近傍地下水の電気伝導度が高い傾向にある。
- ③ なお、庄川右岸・射水低地の大島町から大門町にかけては、周辺に比べてやや高い電気伝導度（30～50(ms/m)）を示すゾーンが分布している。
- ④ このような電気伝導度の平面分布形態は、年間を通して殆ど変化しない。そして、全体としては庄川から小矢部川（の下流）に向かって地下水の電気伝導度が徐々に高くなる傾向がある。
- ⑤ 以上のことは、地下水位等高線図から読みとれる「庄川から小矢部川に向かう地下水流動」とも概ね整合したものとなっている。

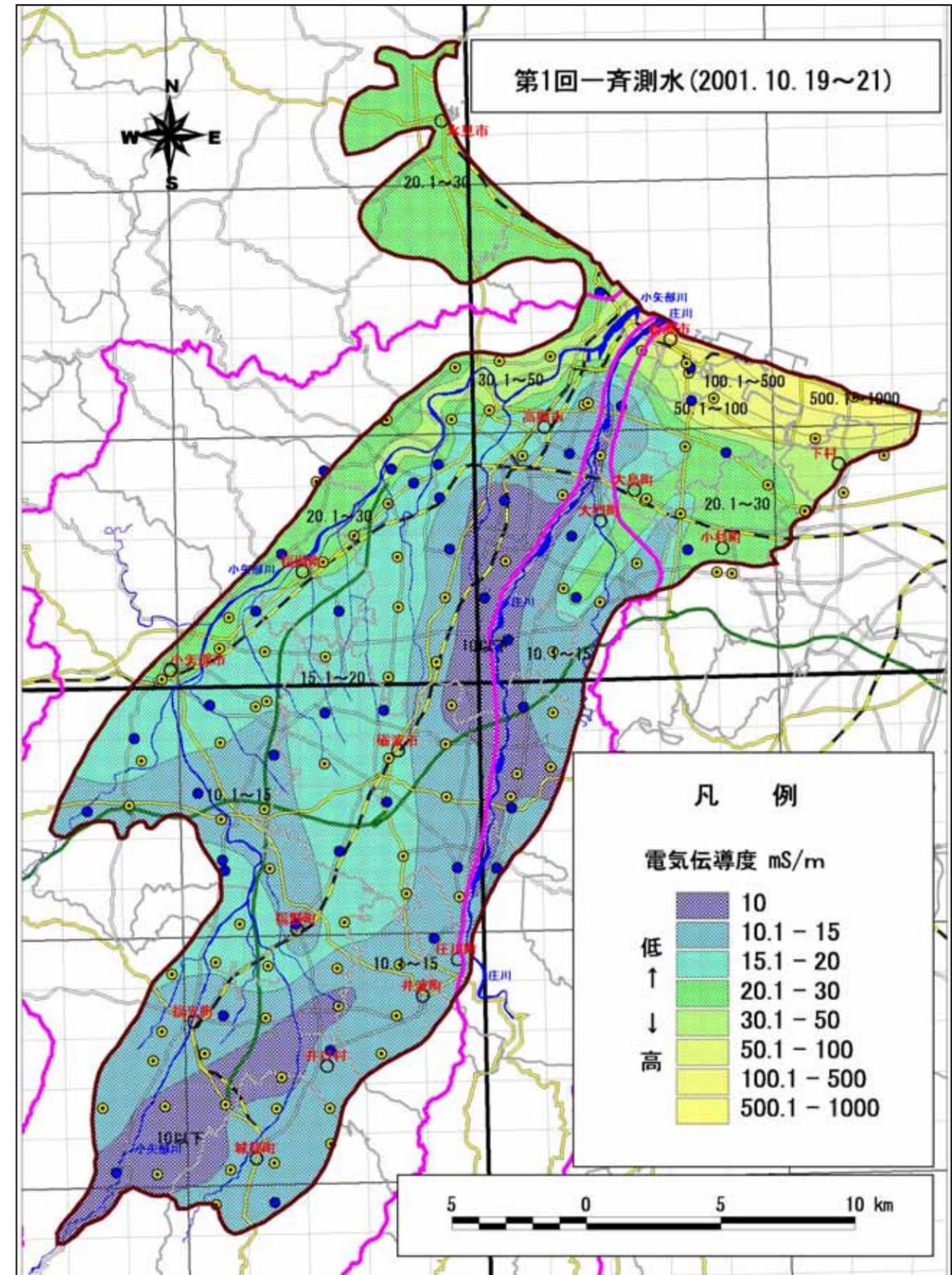


図 2.4-4 (1) 電気伝導度等値線図

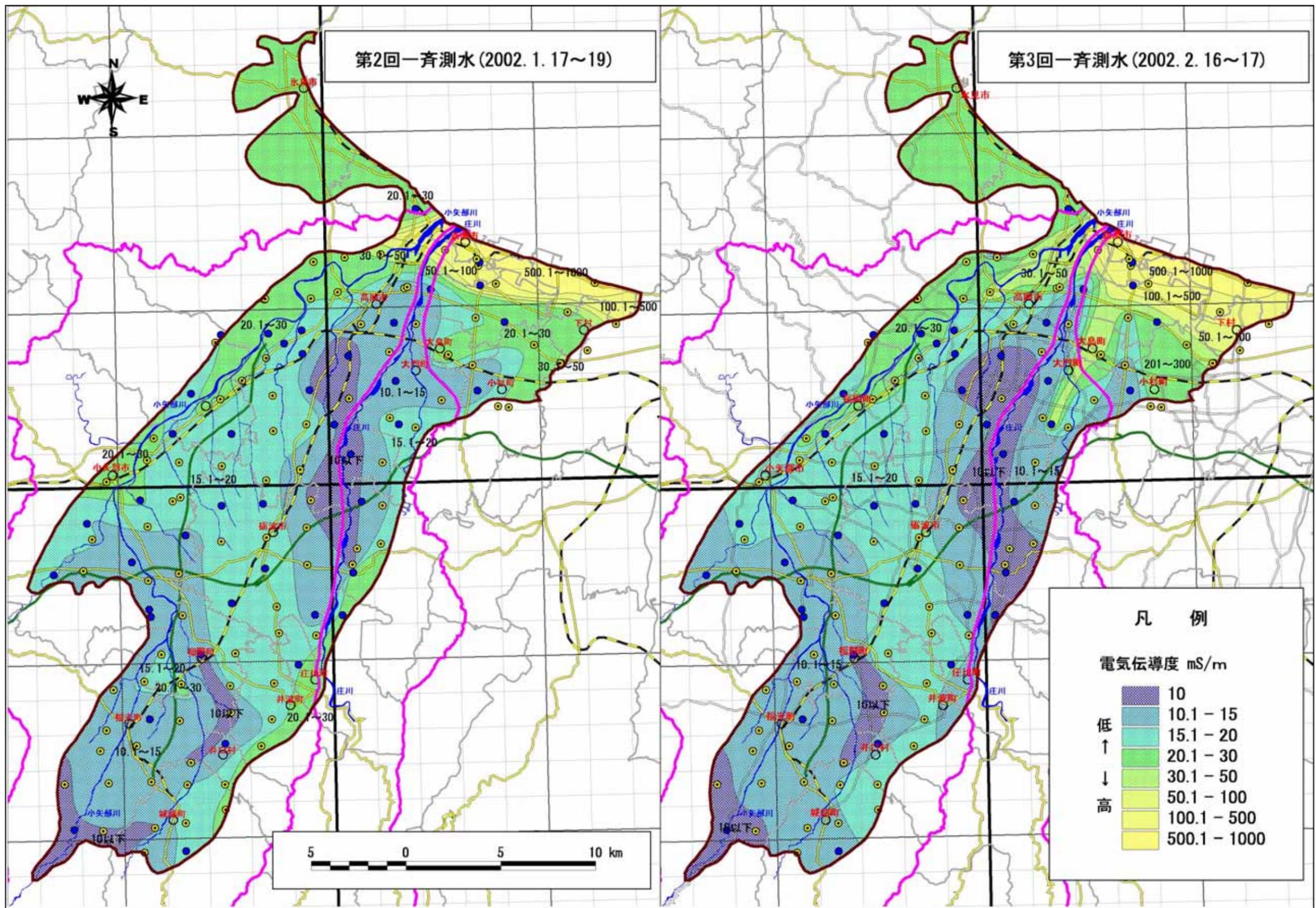


图 2.4-4 (2) 電気伝導度等値線図

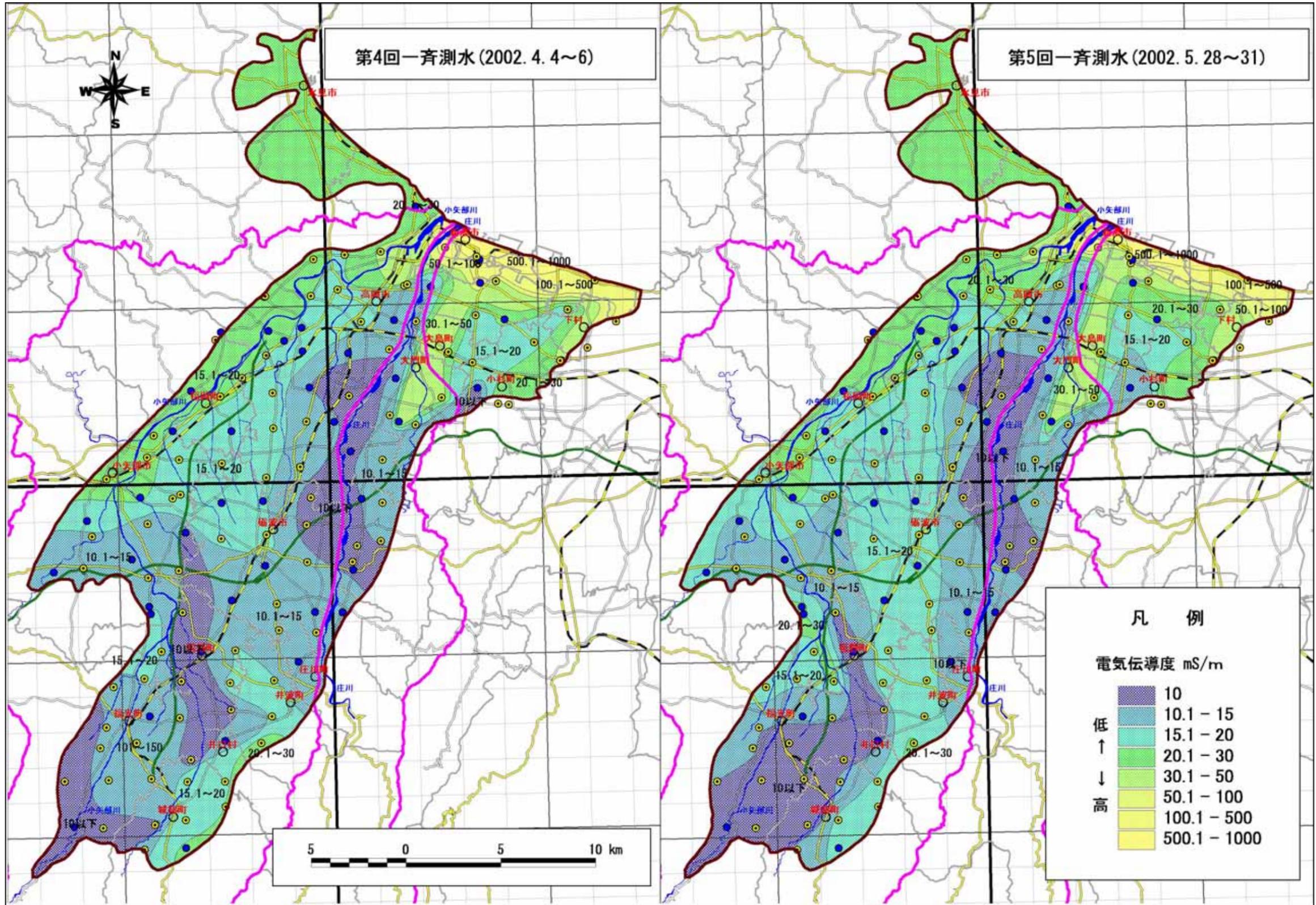


图 2.4-4 (3) 電気伝導度等値線図

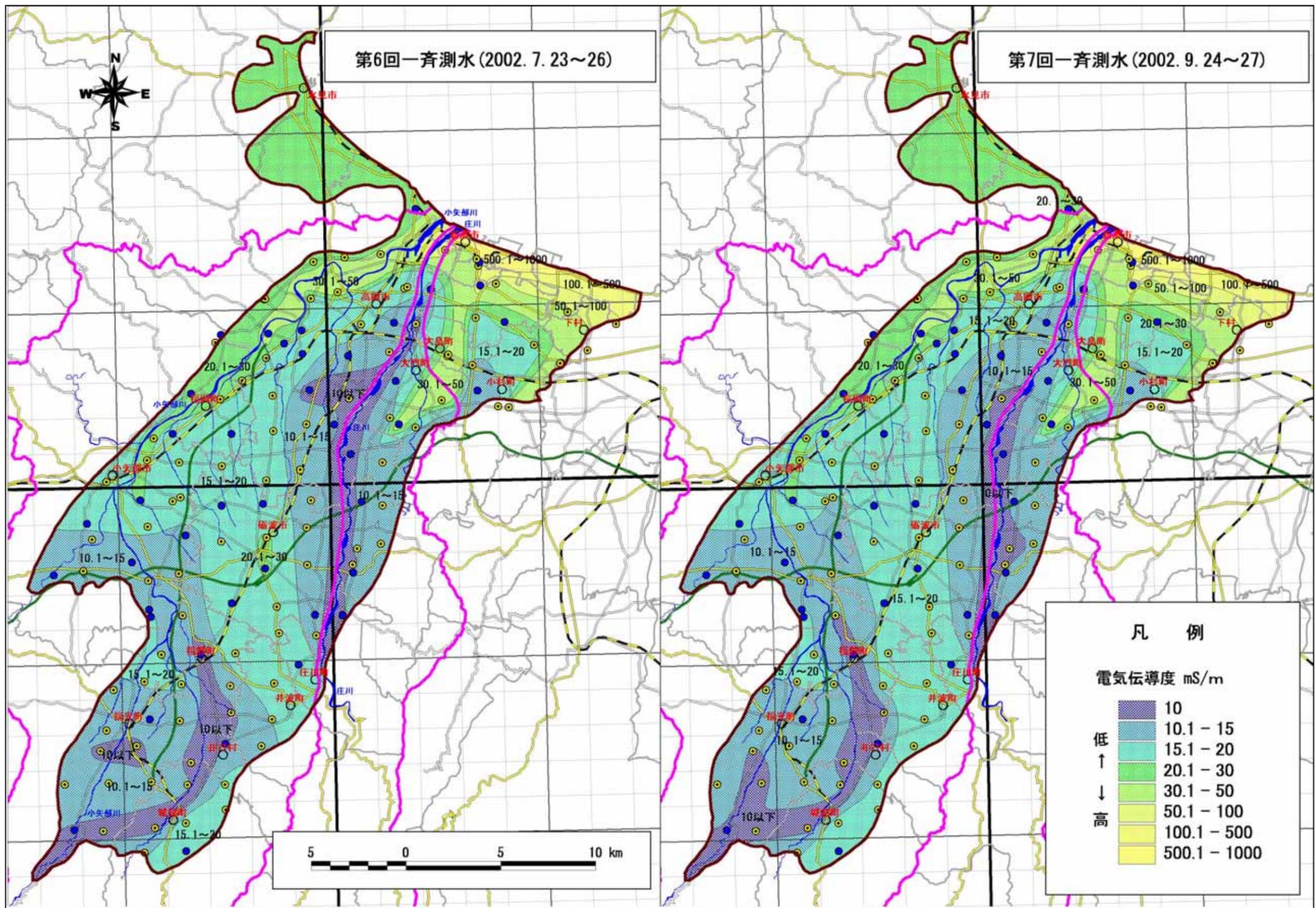


图 2.4-4 (4) 電気伝導度等値線図

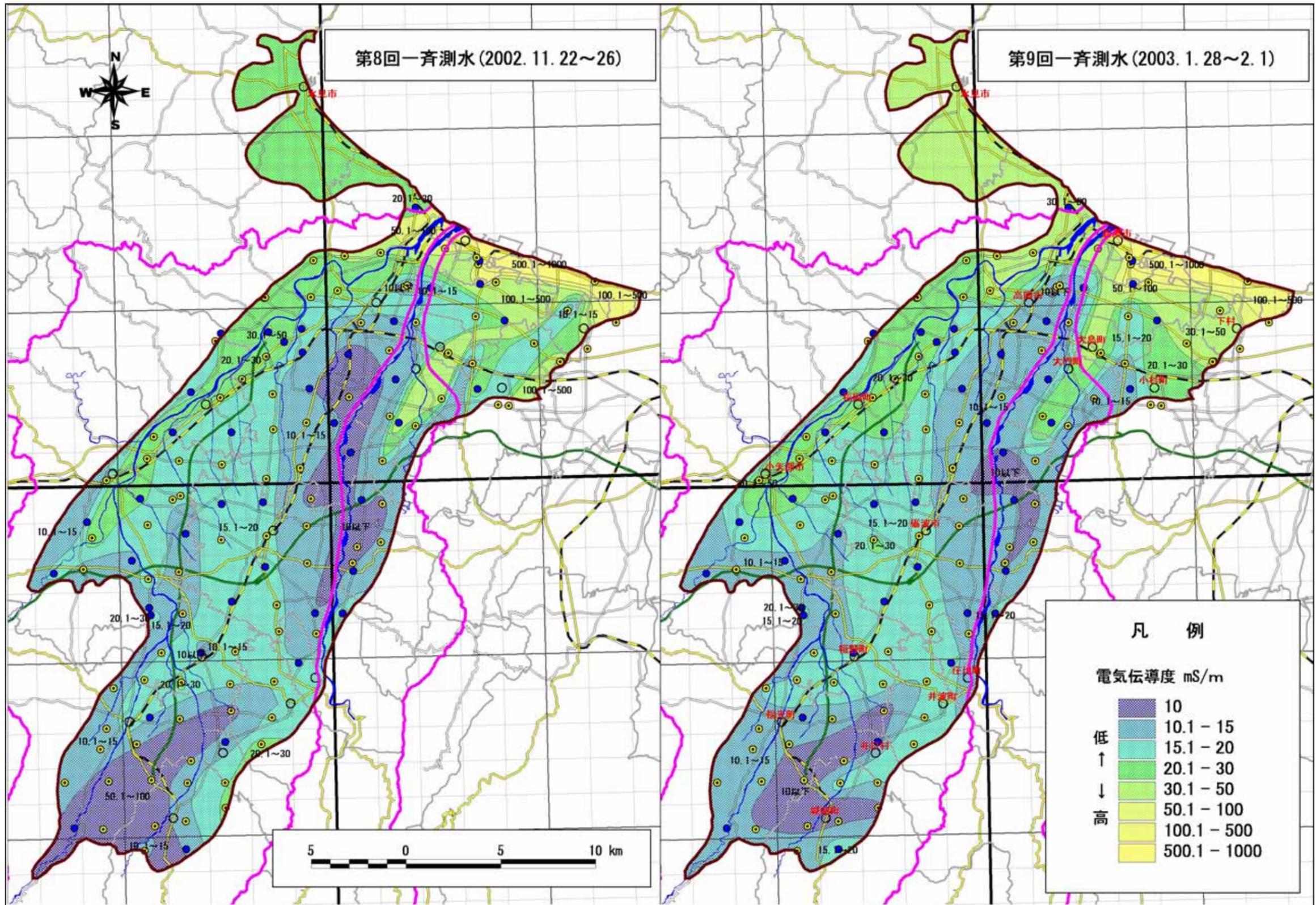


图 2.4-4 (5) 電気伝導度等値線図